

ぜんまい

令和8年 4月
第80号



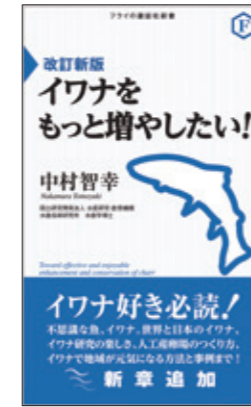
にご淵：「仁淀ブルー」で有名な高知県の仁淀川支流・枝川川にある滝つぼ

CONTENTS

巻頭言	2	ワカサギふ化施設導入に関する支援制度のご案内	19
全内漁連開催の各会議について		我が種苗センター（栃木県漁連）	20
総務委員会を開催	4	気になる研究結果（静岡県内漁連）	22
ブロック会議・推薦委員選出協議会を開催	4	住宅地近接コロニーにおけるカワウの銃器捕獲	24
第1回種苗対策委員会を開催	4	内水面漁協（第50回）	26
第1回日光委員会を開催	5	愛しきアユ（第53回）	27
みんなでやるぞ内水面事業の現地調査・総合評価検討委員会		日光支所から	28
ならびに事業報告会を開催	5	全内漁連の新年度事務体制について	29
第19回内水面漁業の施策に関する意見交換会を開催	10	業務日誌	30
令和7年度補助事業の実施結果報告	14	職員のつばやき	31
令和7年度委託事業の実施結果報告	16	新聞記事から	31
ずっとかかわってきたい内水面	18	編集後記	31

漁業者（会員漁連の傘下漁協組合員）年間契約「四回発行」定価三、〇〇〇円（送料別）
漁業者以外の購読者 年間契約「四回発行」定価四、〇〇〇円（送料別）
単品定価八、五〇〇円（送料別）
単品定価一、一〇〇円（送料別）

刊行物案内



「改訂新版 イワナをもっと増やしたい！」 中村 智幸（著）

イワナや溪流釣り好き必読！2007年に出版された本の改訂版で新章を複数追加。イワナの生態、増殖方法、保全方法、釣りが好き釣りのルール、魚が増える釣りのルール、漁協の遊漁料収入が増える釣り場作りなどを紹介。溪流釣りに関する法律や規則も解説。
本体：1,500円+税10% 定価1,650円
240頁 2025年11月20日発売

問い合わせ先：有限会社 フライの雑誌社
東京都日野市西平山2-14-75



「シジミ漁業の現状と課題 -漁場からの報告-」 中村 幹雄（編著）

2000年に出版された中村幹雄編著『日本のシジミ漁業』の改訂版として、新たな知見と最新の状況を加えて再構成したものです。

本体6,800円+税10% 定価7,480円

問い合わせ先：日本シジミ研究所
島根県松江市玉湯町林1280-1
電話：0852-62-8956
<https://yamatoshijimi.com/>

全内漁連開催の各会議について

総務委員会を開催

○第4回総務委員会

令和8年3月13日、東京都千代田区の衆議院第二議員会館内の会議室において開催し、各議題について、協議および報告をしました。

(1)補助事業の予算配分調整について

令和7年度の内水面水産資源被害対策事業については、不用が発生しないよう引き続き調整すること、令和8年度の同事業については、定額補助はほぼ希望通りですが、二分の一補助については、希望額が予算額を超過しているもので、これまでと同様に実績をベースに調整すること了承されました。

(2)役員の補欠選任について

四国九州ブロックからの報告(候補者の決定には至らなかった)を踏まえ、今後の四国九州ブロックの自律的な解決を見守ることとなりました。

(3)日光事業について

1月26日に開催した日光事業運営委員会にて収支改善を図るために釣魚料金の見直しなど様々な改善案が提起され、3月11日に開催された湯ノ湖・湯川調査研究推進協議会で釣魚料金の改訂

案が了解されたことを報告しました。

(4)その他

職員の採用と今後の予定について報告しました。

ブロック会議・推薦委員選出協議会を開催

■第2回東北北海道ブロック会議

令和8年1月29日、福島県郡山市のダイワロイネットホテル郡山駅前において、補助事業に係る東北北海道ブロック協議会を開催しました。今年度の補助事業について各県漁連から事業の実施状況、結果について報告を受け、質疑応答を行いました。その他として水産庁から8年度の内水面関連予算について説明と、全内から環境省のカワウの会議資料について紹介を行いました。

引き続きブロック主催の会議が開催

され、①7年度アユ漁業について、各漁連から資料等に基づき報告がありました。②各道県からの情報提供。③8年度ブロック会議について、第1回を宮城県で、第2回を北海道で開催することが承認されました。その他として、水産庁より、熊の被害による遊漁者減少に

ついて質問があり、共通遊漁券の販売の出だしが悪い(山形県)・監視等に1人で出ることが出来なくなったことによる人件費の増加(宮城県)・遊漁券の販売数の減少と組合員が熊の被害を受けた(秋田県)等の回答がありました。

■東海及び西日本ブロック合同会議

令和8年2月5日、岡山市のANAクラウンプラザホテル岡山において、補助事業に係る東海及び西日本ブロック合同会議、西日本ブロック連絡協議会を開催しました。全内からは、7年度の予算執行状況について説明を行った後、今年度の補助事業について各県漁連から事業の実施状況、結果について報告を受け、質疑応答を行いました。次に、カワウの広域連携対策について、全内より環境省のカワウの保護及び管理に関する検討会の資料等を説明して各府県の環境部局への働きかけと広域協議会への参加を促しました。水産庁からは、8年度の内水面関連予算について説明があり質疑応答を行いました。

引き続き西日本ブロック連絡協議会

が開催され、岡山県内水面漁連事務局より会計検査について検査官からの有

益なアドバイスがあれば情報共有してはどうかとの提案がありました。来年度は、富山県での開催が承認されました。

その後、話題提供として、岡山県農林水産部水産課から「岡山県内水面の魅力発信に係る取り組み」、岡山県農林水産総合センター水産研究所から「アユ資源回復に繋がる大規模な産卵場造成とその効果確認手法の開発」と題した講演がありました。

□四国九州地区推薦委員選出協議会

令和8年2月5日、岡山市のANAクラウンプラザホテル岡山において、全内理事であった江上敬司郎氏(宮崎県の死去に伴う役員の補欠選任候補者について協議しましたが、役員候補として推薦委員の選出に至りませんでした。

第1回種苗対策委員会を開催

令和8年1月23日、東京都千代田区の丸石ビルにおいて、標記委員会を開催しました。当日は、齋川隆夫委員(青森県)・八田伸一委員(石川県)・オズバーとして滋賀県河川漁連の佐野会長のほか、滋賀県から農政水産部水産

課の磯田能年副主幹、出荷者代表として滋賀県淡水養殖漁業協同組合の木村泰造代表理事組合長、事務局から中奥龍也専務理事他2名が出席しました。

始めに、全内役員改選により委員が一新されたことから、委員長に八田伸一委員を選出し、議事を進めました。

委員会では、令和7年度の琵琶湖産

河川放流用アユ配付事業の結果報告、8年度の琵琶湖産河川放流用アユ配付事業の方針、放流用種苗の供給体制について協議がなされました。

全内事務局からは、7年度の琵琶湖産河川放流用アユ配付事業結果の概略を報告しました。

滋賀県農政水産部水産課からは、琵琶湖の資源状況について報告がありました。令和7年12月1日から解禁したアユ漁については12月末までに注水量を充足し、平年と比較すると低調であるが、極端な不漁となった昨年の約2倍の漁獲量となった。漁獲魚のふ化日も平年より遅い傾向がみられたものの、成長が良好であったため漁獲サイズは平年並みとなっている。ヒウオのふ化日組成から見ると、10月中旬生まれが大きな割合を占めていることから、12月時点で漁獲サイズに達していないヒウオが一定数生息していると考えられるが、

順調に越冬できれば春以降の漁獲に貢献すると期待されることでした。

令和8年度の琵琶湖産河川放流用アユの標準価格については、供給元の滋賀県淡水養殖漁業協同組合より令和7年度と同額での提案があり、承認されました。

また、昨年度は採捕状況が極端な不漁であったことから、5月以降の放流計画において注文した種苗の確保ができない、人手不足等で運送用トラックの手配ができないなど、漁協への種苗の供給が出来なかった事態があった旨の報告がありました。

琵琶湖の資源状況については、令和8年の1月以降も資源の確保が見込まれるとの報告をいただいた所ですが、漁協より申込みのあった分について供給が出来ない事が無いよう、アユ種苗の確保とトラックの手配並びに運転手の確保について、後日、種苗対策委員会から賀県淡水養殖漁業協同組合へ要望書を提出しました。

また、種苗を購入する漁協におかれましては、特に冷水病等の防疫対策について十分確認するとともに、生産者から必ず来歴カードを受け取って、各都道府県の水産試験研究機関に提出していただくようお願いいたします。

表 令和8年度 琵琶湖産河川放流用アユ種苗標準価格(据え置き)

月・期間	1 kg 当たり税込み単価 円 (魚価)
3月下旬	4,730 円 (4,300 円)
4月	4,730 円 (4,300 円)
5月	上旬 4,587 円 (4,170 円)
	下旬 4,235 円 (3,850 円)
6月	3,795 円 (3,450 円)
6月下旬 7月・8月	3,685 円 (3,350 円)

第1回日光事業運営委員会を開催

令和8年1月26日、東京都千代田区の丸石ビルにおいて、標記委員会を開催しました。当日は、湊屋啓二委員(秋田県)・松元平吉委員(群馬県)、米村義信委員(山口県)、全内事務局から中奥龍也専務理事、遠藤祐二日光支所長他3名が出席しました。

始めに、全内役員改選により委員が一新されたことから、委員長に松元委員

を選出し、議事を進めました。

(1) 日光事業をめぐる諸課題について

(2) 日光事業の推移と今後の改選方針について

(3) その他について全内の中奥専務理事から資料に沿って説明を行い、課題を協議しました(本誌28頁参照)。

みんなでやるぞ内水面事業の現地調査・総合評価検討委員会ならびに事業報告会を開催

●現地調査

今年度に本事業の申請が採択された団体の取り組み状況の確認と、評価委員によるアドバイスの機会として現地調査を実施しましたので報告します。

●宮城県内水面漁業協同組合連合会

令和8年1月9日に、全内会議室においてWebヒアリングを行いました。主な議題は、本事業により2月21日に東北大学で開催予定のシンポジウムについてでした。諸事情により、当初計画から変更し、シンポジウムは1回に集約し、規模を拡大して実施すること。内容は漁協の高齢化対策等の問題点に焦点を当て、事例発表のほか、漁協と遊漁者の協力体制を模索するための意見交換を行う等の計画が示されました。委員からは、先進的な漁協の事例を参考に



気になる研究結果

コクチバス一釣法のご紹介

静岡県内水面漁業協同組合連合会 専務理事

花井 孝之



筆者右下：川の生き物観察会の案内役もやっています

はじめに

全国的にコクチバスの猛威が広がっています。静岡県も例外ではなく、一部の河川で繁殖が認められています。これまで本河川においては様々な手法で採捕を試みてきましたが、残念ながらあまり有効ではありませんでした。そこで、関係者から情報をいただきながら頻繁に現場に通い、未完成ではありますが有効と思われる手法を見つけてきましたので、ご紹介したいと思います。

河川の状態は様々です。コクチバスの習性も全く同じではないと思われま。本題に入る前に、本河川の特徴及び本河川のコクチバスの習性について簡単に記述しておきたいと思ひます。

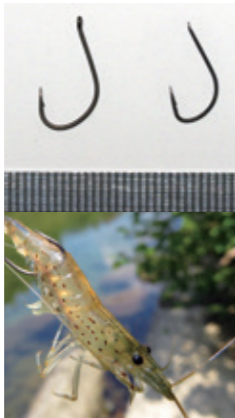
- 本河川の特徴
- ・水質は極めて良好
- ・透明度が高く、水深2mの場所でも動きを詳細に観察できる。
- ・河床の地形が複雑で起伏に富む
- ・河川構築物が多く、人が立ち込めない深場も多いため、網類等を導入できる場所が少ない。

の約9割を釣獲できました。

なお、釣獲魚の範囲は全長10〜45cm、釣獲できた範囲は約10m、最大で約15mでした。

どのような道具を使ったのか

- ・餌 現地で作られる様々な餌を試しましたが、最も反応が良かったのはエビ類でした。現在は、自宅付近で同種のエビ類を入手して使用していますが、外来種が含まれる可能性があるエビ類は除外しています。ちなみに市販のミミズでは興味すら示しませんでした。
- ・針 ふところが広く、線径の細かい針を使っています(写真参照)。釣獲後や針掛かりが悪いときには針先をチェックし、鈍っている場合には交換します。



針(上) 餌の付け方(下)

・ハリス 4LBフロロカーボンを約1.2mつけています。餌を飲み込まれたら、釣りあげる時に障害物に触れた場合は、傷がないかチェックします。傷があったらその部分は切り取り、針を付け替えます。その度に短くなるので、80cm位になったら交換します。線径の細かい針への負担を減らすため、やや伸びのあるラインを

・アユとコクチバスの生息場所が重複両者がかかり重なっており、6月当初の解禁以降は網類等を入れるのは困難です。

○本河川のコクチバスの習性

- ・警戒心がすこぶる強い
- ・何か異常を感じると、全長20〜25cmを超える個体は泳いで逃避し、それ以下は深場の障害物に逃げ込んでしまう。

・アユ解禁以降も産卵期例年5〜6月が産卵期であり、この時期は警戒心が多少緩和され、採捕しやすくなります。しかし、6月当初のアユ解禁以降は採捕のため河川に入ることができません。

これまでの経緯

アユ釣り師がいない解禁前に様々な手法を試してきましたが、どれも有効でなく、捕りこぼしが多い状態でした。また、解禁以降は川に入らず、採捕はほぼ不可能となっていました。

しかし、川岸や長靴を履いて立ちこんでの釣りならばアユを警戒させることは少なく、解禁後であっても採捕可能と考えました。そこで、水の透明

使っています。

- ・ガン玉 ゴム張りガン玉(サイズ2B)を針から30cmの位置につけるのを基本としています。魚の反応が悪いときは、ガン玉を軽く、または針からの位置を長くします。逆に、反応が良いときは、重く、または短くしています。頻繁に脱着するので、糸に傷をつけにくい、内部にゴムを張ってある製品を使っています。
- ・道糸 道糸も沈めたいので高比重PEライン0.6号、かつ警戒させないため目立たない色の製品を選びました。
- ・リール 2500番のノーマルギアのタイプ、安価ではあるもののドラッグ性能が高いものを使っています。
- ・竿 Lアクションですがバスも釣れる約2mの竿を使用しています。



仕掛け



竿とリール(合わせて約15千円)

この釣り方で注意したこと

何をさておき「魚に警戒心を与えず、目の前に餌を自然沈下させる」ことを。

度が高いことを大いに活用し、まずは様々な釣り方を試してコクチバスの反応を観察してみました。



肉眼で目視したコクチバス(観察時は偏光メガネ着用推奨)

その結果、従来有効とされてきた、リールを巻きながら餌を動かして釣る方法、餌を流れて乗せて釣る方法は、警戒され、すぐに釣れなくなるかわかりました。しかし、目の前に餌を自然沈下させる釣りでは好反応を示しました。そこで、次のような目標を立てて、仕掛けや釣り方を工夫してみました。

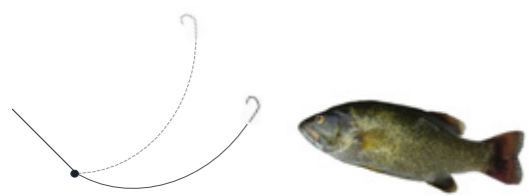
・時間当たりの効率を求めず、目視で

目立つ服装、不用意に川に入ることや上から覗き込むことは控え、偏光メガネを装着して、道具をセッとしたまま、しばらく行動を観察します。魚が定位していればその場所に、泳いでいても定位する場所があるので、この場所にタイミングよく仕掛けを投入すると、良い反応を示すことが多かったです。餌全体が口に入るのが見えたら、リールを巻きながら、竿を立てて、しっかりと針掛かりさせます。

なお、水流が速い場所ではガン玉が着底せず、餌が不自然に流下するため、逆に警戒されてしまいました。

また、下流から上流に向けて投入すると、川の流れてガン玉が石の隙間に挟まってしまいます。上流から下流に向けて投入するか、またはガン玉が挟まる石などが少ない場所に投入することで、仕掛けの損失が大幅に減少しました。

なお、極端に深い場所でも、魚の姿がおぼろげながらも分かる状態なら、透明度の高い場所での動きをイメージすることで、高確率で釣獲できました。障害物回りや水面が乱反射して魚影が見えない場所でも、仕掛け



本釣法のイメージ

きるコクチバスをかなりの割合で釣獲し、仕掛けの変更は1セットと対象は全長約15cm以上の中〜高活性魚(活性の区分は表参照)

- ・道具一式は比較的安価なもので揃える(予算2万円)としました。

魚の活性の目安(筆者個人の感覚的な区分です)

活性のレベル	説明
活性度5(高活性)	餌が着底する前に食べる。餌を飲み込む場合もある。
活性度4(高活性)	着底後すぐに餌を食べる。
活性度3(中活性)	着底後、しばらく時間を置いてから餌を食べる。
活性度2(低活性)	着底した餌に興味を示し、近寄ってくるが、警戒してなかなか餌を食べない。
活性度1(低活性)	泳ぎ回ったり、障害物に隠れたりして、餌に興味を示さない。

結果

概ね当初の目標は達成できたと思ひます。魚の活性を中活性以上に維持できた場合には、目視できるコクチバス

が沈む際に不自然に糸が動いたり、ガン玉が着底した後に仕掛けを軽く引き上げてみると、釣れることが意外に多かったです。

繰り返しになりますが、本釣法が適した場所は、水の透明度が高く、魚の動きが目視できる

- ・流れは早くなく、餌が流されずに自然沈下できる ところです。

今後の展望

中活性から高活性魚に対して、道具は1セット、仕掛けもほぼ同じ(活性に応じて、ガン玉の位置と重さを変えるだけ)、かつ釣獲率が高い手法を見出すことにこだわったため、やや特殊な手法になってしまいました。この手法のさらなる改良も必要ですが、多少釣獲率が低く、多少釣獲できる範囲が狭くても良いので、もっと簡易な道具で採捕できる手法も必要かと思ひています。

おわりに

ここでご紹介した手法は、静岡県内の当該河川ではある程度有効と思われませんが、全国的に通用するのには未知数です。各地各河川の状態に合わないかもしれないが、本稿が少しでもお役に立てれば幸いです。

なお、紙面の都合で細かい部分まで網羅することが出来ませんでした。ご不明な点がありましたら、筆者まで直接お問い合わせください。